

直喩 (Simile) / 隠喩 (Metaphor) 表現が 英語コミュニケーションに与える影響と効果 — プレゼントラッピング効果と受容的姿勢に焦点を当てて —

太 田 一 郎

(鎌倉女子大学)

1. はじめに

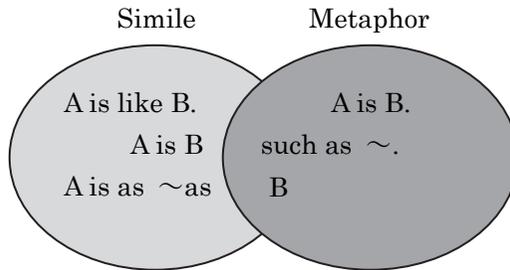
本研究では、レトリック (修辞法) の1つである直喩 (Simile) と隠喩 (Metaphor) 表現が、英語コミュニケーションに与える影響と効果について考察する。グローバル社会において異なる母国語を持つ相手と意思疎通を図り、理解を深めるためには、世界共通言語である英語による円滑なコミュニケーションが不可欠であることは周知の事実である。その意思疎通では、「わかりやすく、受け入れやすい表現」を用いることが重要である。たとえば、流暢に英語を操ったとしても、相手の生活や文化に馴染みがない表現や、使う語彙や表現の使用頻度が低く理解しづらい表現、相手に聞き入れてもらいにくい内容表現などは十分に意思伝達ができないこともあり、誤解をまねき人間関係に距離感を生む可能性も否定できない。これらの点は、どの言語の領域の中でも発生することだが、特に英語では、異なる文化や言語を背景に持つ民族同士が発展的な関係と相互理解を図るために用いるという国際的な立場で考えるとその重要性は明らかであろう。

たとえば、日本語では「あなたの家族の中では、誰が実権を握っているのですか。」などという不躰で尋ねにくい質問でも、「あなたのご家庭では、どなたが最初にお風呂に入るのですか。」と尋ねれば、相手にその真意も伝わり、好意的な返答が期待できる。英語では *Who has the authority in your family?* と表現する代わりに *Who cuts the meat in your family?* と表現するのと同様である。権威を持つ者＝一番風呂に入る人 (日本語)、権威を持つ者＝肉を切り分ける人 (英語) という隠喩表現 (Metaphor) を使用したコミュニケーションの一例である。このような直喩・隠喩による英語表現が通常の英語表現よりも相手にとって「わかりやすく、受け入れやすい表現」になりえるのはなぜであろうか。その根拠について先行研究を参照しつつ、直喩や隠喩表現の影響及び効果を様々な場面と人間関係に焦点を当てながら意図や目的を明らかにしつつ探求してみたい。

2. 直喩表現 (Simile) と隠喩表現 (Metaphor)

ある物事の定義を、喩 (たとえ) を用いてわかりやすく表現したものを、比喩表現 (Figurative Expression) と呼ぶが、それをさらに直喩と隠喩に分割したものが、それぞれ Simile と Metaphor である。Simile は *A is like B. / A is as ~ as B.* で表現され、日本語では「A は B のようだ」「A は B と同じくらい～だ」という意味になる表現である。それに対して Metaphor は *A is B.* で簡潔に表現され、「～のような」「～と同じくらい」の

意味を示す like～ / as ～as を含まない。表現形式上は直喩が間接的であり隠喩が直接的と言える。(小崎充 1992) しかし、英語には A is B such as ～のような表現もあり、Simile と Metaphor は別々の集合体ではなく、交わりのある部分集合を形成しているとも言える。



Lakoff と Johnson は、直喩 (Simile) や隠喩 (Metaphor) を認知的意味の観点でアプローチし、分析した結果を *Simile or Metaphor is not only a means of describing things in a literary way, but that it also acts as the basis for the way we conceive the world around us, and the way we act and interact with.* (直喩及び隠喩表現は、修辞法上の表現技法にとどまらず、周辺世界の事物や事象に対し、私たちがどのように心にとどめ、そしてどのように行動しそれらに関わっていくかを表現する論拠を成す。) と論じている。

(Johnson 1980 / Lakoff 1987) つまり、直喩 (Simile) ・隠喩 (Metaphor) 表現は、私たちが生きていく過程で学習し、経験したものに対し、どのように考え、また信条としてどのように心に刻んだかを表す技法であるということを示唆している。また、Aisenman は、直喩 (Simile) と隠喩 (Metaphor) の区別にあたり、「帰属性」と「相関性」に着目している。例えば、*The sun is like an orange.* (太陽はオレンジのようです) は、その色と形が「オレンジ色で丸い」という属性における部分的な類似点が根拠となっている。それに対して *The sea is a big aquarium.* (海は大きな水族館です) は、どちらも「魚と水を含む」ことによって成り立つという相関性の類似点が根拠となっている。直喩 (Simile) は帰属性の類似点を述べるのに好まれ、隠喩 (Metaphor) は相関性の類似点を述べるのに適していると結論づけている。(Aisenman 1999) 一方、Gibb と Wales は、Aisenman とは異なる心理的な決定要因を示した。それらは「伝達内容の具現化」、「趣旨の特殊化」、「伝達内容を伝える叙述形容詞」の3つの要因であり、直喩・隠喩どちらの表現を使うかに大きな影響を与えると論じている。(Gibb & Wales 1990)

LDCE (2014) によれば、Simile と Metaphor は次のように定義されている。

A simile is where two things are directly compared because they share a common feature. It is the use of an expression which describes one thing by directly comparing it with another by using the words 'as' or 'like.'

A metaphor compares two things more directly without using 'as' or 'like'.

このような定義に従い、Simile と Metaphor を比較しやすい2つの例文を以下に示す。

<The Example of 'Simile and Metaphor'>

- Life is like a box of chocolates. (人生はチョコレートの詰め合わせのようなものだ)
- Life is a journey. (人生は船旅だ)

上記の例文の *Life is like a box of chocolates.* (映画「フォレスト・ガンブ」1994) と言う直喩 (Simile) 表現は、その意味と解釈において人それぞれ異なるであろう。「チョコレートの詰め合わせは色々な味が楽しめるように、人生も楽しい日々が待っているのだ」と解釈する者もいれば、「好きな味、嫌いな味がいろいろ混ざっているように人生にも浮き沈みがあるのだ」と解釈する者もいるだろう。しかし、いずれの場合においても「色々な人々との出会いがあり様々な経験ができる」という人生の側面と、「色々な味が楽しめる」というチョコレートの詰め合わせの側面双方の部分的類似性が強調されているが、それら両者の本質的違いは明らかである。人生は語るに困難な抽象名詞、チョコレートはカカオを使った砂糖菓子の代表であり実物が目で見てわかるものである。一方、*Life is a journey.* (ジーニアス英和辞典 2014) という後者の隠喩 (Metaphor) 表現はどうであろうか。これは人生を船旅に喩えた表現だが、「どちらも時間をかける」、「様々な経験や出会いがある」、「予期できぬ試練や苦難が待ち受けている」「大海原の中で暗中模索しながら進む」などいくつかの相関的な類似性が重なり合い、包括的かつ本質的な類似性に言い及んでいる。聞き手によってどの類似性に大きなウエイトを置くかは、微妙に異なると言える。これらの点からわかるように、直喩、隠喩表現は、類似性の把握や見つけやすさを考えるとその内包的な類似点の意味が異なるが、いずれの場合においても、解釈を相手に委ねることによって「私と同じ考えを持つのではないか」「私と似た価値観を持つ人ではないか」という期待感と親近感を聞き手に想い抱かせる。それらの表現上の具体的影響と効果を、直喩 (Simile) ・隠喩 (Metaphor) 表現それぞれについて紐解いていきたい。

3. 聖書の中の直喩表現と隠喩表現 (Religious Precept: 宗教的教示 / 戒律)

聖書 (Bible) は、*The Book* または *The Book of Books* と呼ばれており、紀元前 930 年頃から紀元後 100 年頃にかけてヘブライ語、ギリシャ語で書かれた。ここではキリスト教徒に対して「神の言葉」(*The Word of God*) として記されている新約聖書を取り上げる。そこに書かれている言葉は、人々に対する神の満ち溢れた愛と加護を、教示や教訓の形で表現している。それらの言葉の中には、直喩・隠喩表現がちりばめられ、様々な影響や効果をもたらしている。それらの英訳文のうちいくつかを示す。

- I am Alpha and Omega, the beginning and the end, the first and the last.

私はアルファでありオメガである。最初の者であり最後の者である。初めであり終わりである。
(新約聖書ヨハネの黙示録 22:12-13)

<影響と効果>

この隠喩表現は、神がこの世の創造主であることを語っている。 α と Ω はギリシャ語の最初と最後の文字であり、後者の表現はそれを補足している。「初めであり終わり

である」と言う部分は、神の子イエスは、現在・過去・未来いつの時でも傍らに寄り添う祝福の主であると感じさせる表現であり、時間軸に保証された全能者を思わせる。

- **I am the light of the world. Whoever follows me will have the light of life and will never walk in darkness.**

私は世の光である。私に従う者は、決して暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。

(新約聖書ヨハネの福音書 8-2-12)

<影響と効果>

この隠喩表現は、イエス自身が「この世の光である」と表現することで、「神」という存在自体の輪郭や実体がかめられないものに光と色を与え、イメージネーションを喚起している。また、光から神の持つ力 (power) を感じさせる。神に従順であることによって闇に迷い込むことがないという安心感と信仰心を呼び起こしている。

- **You are like salt for the whole human race. But if salt loses its saltiness, there is no way to make it salty again. It has become worthless, so it is thrown out and people trample on it.**

あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味がつけられよう。もはや何の役にも立たず、人々に踏みつけられるだけである。

(新約聖書マタイの福音書 5-2-13)

<影響と効果>

この直喩表現は、人々を「地の塩」に喩えることによって、「人間の美しい心 (人間性) は生きるために必要不可欠であるが、一度腐敗したらもう取り戻すことができない。常に清らかな心を持たなくてはいけない。」ことを暗示し、人の心の不可侵とその美しさの重要性を感じさせる。心が腐敗した人間は、この世から抹殺されるという恐怖感も与えている。

- **The eyes are like a lamp for the body. If your eyes are sound, your whole body will be full of light; but if your eyes are no good, your body will be in darkness.**

体の灯し火は目である。目が澄んでいればあなたの全身は明るい、濁っていれば暗い。

(新約聖書マタイの福音書 6-5-22)

<影響と効果>

この直喩表現は、目の輝きを灯し火に喩え、澄んだ目と澁刺とした身体とのつながりを説いている。現代語では、「健全な精神は健全な身体に宿る」のように表現するだろう。2つの物事の密接なつながりと互いに輝く共存性を巧みに表現している。

聖書に使用されている直喩・隠喩表現は他にもいくつかあるが、上述の4つの例文から、

- ① 時間的限定から解放し、絶対的な存在を表現できる。
- ② 抽象的で実体をつかみにくいものに対して、光と色、形を加えその力を想像させる。

- ③ 物事の重要性や、それを失う時の喪失感を表現できる。
- ④ 2つの異なる領域の中にある物どうしの類似性を表現できる。

限定的ではあるが、これら①～④の顕著な表現上の特徴が分析され、それらが聖書の述べる教示や教訓に説得力を与え、長い年月を超えて人々の信仰心を呼び起こしていると考えられる。

4. 一般社会における英語コミュニケーションにおいて見られる直喩 (Simile)・隠喩 (Metaphor) 表現例と人間関係

2. の中で、直喩 (Simile)・隠喩 (Metaphor) 表現は、相手にとってわかりやすく、受け入れやすい表現となり、相手にその解釈をゆだねることによって円滑なコミュニケーションが期待できると述べたが、現代社会の中では具体的にどのような表現が使われているのだろうか。また、その目的はどのようなものであろうか。コミュニケーションが行われる場面と、そこに関わる人々の人間関係に着目し、考察する。

4-1: 限定的な場面における一時的コミュニケーション(Temporary Communication)

道を尋ねる時などのコミュニケーションには、「目的地までの方向や位置を確認し理解する」という実務的な使命があり、その中には、「相手に自分の気持ちや考えを分かってほしい、受け入れてほしい」という心情的な欲求は含まれないであろう。例えば、道を尋ねてもその方角が理解できない時、It's all Greek to me.のような隠喩表現を使うであろうか。I can't understand it. Tell me again, please. というような表現を使う方が圧倒的に多いであろう。あいさつを交わす程度の知人または隣人に対して It's a nice weather. という代わりに My feeling is as clear as the blue sky. と表現したらどうであろうか。心情は理解できるとしても相手は戸惑いを隠せないだろう。レストランでのメニューの注文、ショッピングでのサイズや品質、値段に関わる交渉なども同様なことが言えるだろう。このような観点から、これらの限定的な場面における一時的コミュニケーションにおいては、直喩・隠喩表現を相手に用いることは極めて稀であり、物事の実事や伝達したい事柄をストレートに表現することが多数を占めるのではないかと考える。

4-2: 家族や親族間のコミュニケーション (Continuous Communication Case1)

家族や親族関係の人々は、実生活の中で長く時間を共有しており、信頼が厚く、最も絆が深い人間関係と言うことができる。家族間のコミュニケーションには、気持ちの共有において遠慮や誤解が生じにくいので、直喩・隠喩表現を使わず物事をストレートに表現することが多いであろう。しかし、夫婦関係や子どもの成長過程でお互いの距離感に変化が生じ、愛情表現や相談などがストレートにできないような時に、以下のような表現に類似するものが見られることがあると思われる。

- ・ You are my treasure. (Metaphor) → I love you
(お前は私の宝だよ。→ 私はお前を愛しているよ。)

- I'm not your pet any more, Dad. (Metaphor) → Don't hang around me, Dad. I'm an adult.
(私はパパのペットじゃないの。→ パパ、私の周りをうろつかないで。もう大人なのよ。)
- I know you are as patient as a tortoise. (Simile) → Keep on working hard. Don't give up.
(おまえは亀のように辛抱強いはずだ。→ 努力を続けなさい。あきらめてはいけない。)
幼少の頃に童話「ウサギとカメ(A Tortoise and A Hare)」を読み聞かせた経験のある親子間などに通じる直喩表現である。
- My wife is air for me. (Metaphor) → I can't live without my wife.
(妻は私にとって空気のようなものです。→ 私は妻なしでは生きられません。)

4-3 恋人・友人間のコミュニケーション (Continuous Communication Case2)

恋人や友人関係にある人々には、家族などと比較して「距離」や「遠慮」を感じる反面、家族以上に自分の気持ちや考え、感動を伝え、受け入れてもらいたいという欲求がある。恋人関係であれば、愛情、好意、絆などがあり、友人関係であれば、友情・好感・信頼などがあり、それらに加え、軽蔑・批判や謝罪・戒めなどがある。これらの人間関係から、「伝えにくいを受け入れてほしいこと」を直喩や隠喩を用い、相手に伝えるケースが考えられる。以下に示すような例文に類似する直喩・隠喩表現がコミュニケーションの中に生まれると考えられる。

<愛情・友情>

- You are my sunshine. (Metaphor) → I love you.
(あなたは私の太陽です。→ 私はあなたを愛しています。)
- You are as sweet as a strawberry. (Simile) → You are very warm and kind to me.
(あなたはイチゴのように甘い。→ あなたはとても心温かく優しい人だ。)
- You are as brave as a lion. (Simile) → You are very strong and powerful.
(あなたはライオンのように勇敢だ。→ あなたはとても力強い。)
- You are my right arm. (Metaphor) → You always support me. I trust you.
(あなたは私の右腕だ。→ あなたは、いつも私を助けてくれる。信用している。)

<絆・信頼>

- You are like rays of sunlight through the trees. (Simile) → You always give your blessings to me.
(あなたは木漏れ日のようだ。→ あなたはいつも私を温かく見守ってくれる。)
- School life without you is like cola without a punch of soda. (Simile) → I admire your personality and talent at school.
(あなたがいない学校生活は、炭酸の抜けたコーラのようだ。→ 私は学校で見せるあなたの個性や才能を称賛している。)

<軽蔑・批判・嫌悪>

- ・My friend is like a pig. (Simile) → My friend eats food with noise and rude manner.
(私の友人は豚のようだ。→ 私の友人は、ズルズルと音を立て、行儀悪く食べる。)

<謝罪・戒め>

- ・I was just like a spoiled child. (Simile) → I was terribly arrogant. I'm sorry.
(私はただ、聞き分けのない子供のようにふるまってしまった。→ 強情でした。ごめんなさい。)
- ・You are only a frog in the well. (Metaphor) → You know nothing of the world.
(あなたは、井の中の蛙にすぎない。→ あなたは世界のことを何も知らない。)

4-4：職場の同僚や取引先に対するコミュニケーション

(Continuous Communication Case3)

職場の同僚、営業先、取引先などの英語コミュニケーションでは、それぞれビジネスや研究活動等の中で、計画や立案、製造や実験、販売や発表等の過程で成果を上げ、利潤や社会貢献を追い求めるといった共通の目標がある。また、その目標は、異なる言語を持つ者同士がグローバルなビジネス社会で成し遂げるものが多い。その意味では、個人的な心情において「言いたくても言いにくいこと」「受け入れてほしいこと」などを直喩・隠喩表現を用いて相手に伝えることよりも「ビジネスに関わる成果を追い求めるための直喩・隠喩表現」が多く使われ、それらの表現の中には、以下に示すような明確な目的意識が存在していると言える。

① 信頼性・説得性・安定感の強調 (Persuasion, Conviction, and Stability)

- ・ These members are three important pillars of stability in the group. (Metaphor)
→ These members mainly control the group.
(これら3人のメンバーたちがその集団の要となる支柱だ。→ これらのメンバーたちがその集団をコントロールしている。)

これに類似する隠喩表現は、古くは日本の戦国武将である毛利元就(1497-1571)も用いていた。3人の息子(隆元、元春、隆景)に対し、1本の矢はもろくとも3本の矢となれば頑丈で折れにくいことを示し、3人が結束することの重要性を説いた。「3本の矢」の教訓として現代に残る逸話である。2012年発足の安倍内閣も、この「3本の矢」の表現を使い、3つの経済再生政策(アベノミクス)を挙げ、その信頼性と説得性、安定感を国民と世界に向けて説いた。

② 時間短縮・簡潔性促進 (Promotion of Compact Presentation)

- ・ His presentation is like a lullaby. (Simile) → His presentation is long and makes

us sleepy.

(彼のプレゼンテーションは、子守唄のようだ。→ 彼のプレゼンテーションは無駄に長く眠気を誘う。)

③ 可能性・期待 (Possibility and Expectation)

・ This new product can sell like pancakes. (Simile) → This new product can sell very well.

(この新製品はパンケーキのように売れる。→ この新製品は大幅に売り上げを伸ばすだろう。)

④ 否定的意見 (Negative Opinion)

・ He is a baby in the development of the new products. (Metaphor) → He is just a new face and has no idea for the new products.

(新製品の開発において彼は赤ん坊さ。→ 彼は配属されたばかりで新製品のアイデアなんてないよ。)

・ This project is like finding an ant which has the longest antenna from their lines. (Simile) → This project is meaningless and wasting time.

(この計画は、蟻の行列の中から一番触角の長い蟻を見つけ出すようなものです。→ この計画は、意味がなく時間の浪費です。)

⑤ 抽象概念の視覚化・情景化・イメージ化 (Visualization of Abstract Incidents)

・ Mastering business English is like mastering how to ride a bicycle. (Simile) → When you learn business English, to keep on practicing is very important. Don't be afraid of making mistakes.

(ビジネス英語をマスターするということは、自転車の乗り方をマスターするようなものです。→ ビジネス英語を習得するときは、継続した練習が大切です。間違いを恐れてはいけません。)

⑥ 決断・実行促進 (Decision Making)

・ It's like taking a leap in the dark, but you know what you have to do now. (Simile) → It's time to make a decision.

(さぞ清水の舞台から飛び降りるような心境でしょう。しかし、今何を成すべきか、お判りでしょう? → 決断を下すときです。)

・ Do you want to spend the rest of your life selling sugared water, or do you want a chance to change the world? (Metaphor) → Do you want to continue your job, or do you want to quit and join us?

(君は残りの人生を砂糖水の販売に費やしたいかい?それとも世界を変えるチャンスを手

に入れたいかい? → 君は今の仕事を続けたいのかい? それとも仕事を辞めて僕たちの仲間になりたいかい?)

この隠喩表現は、米国大手コンピュータ製造会社アップルの創業者である故スティーブ・ジョブズ氏(1955-2011)が、コカ・コーラボトラーズに勤めている友人をヘッド・ハンティングする際に用いた有名な隠喩表現(Metaphor)である。コーラの販売を「砂糖水の販売」と表現し、アップル社の一員となることを「世界を変える」と表現して大きな決断を迫った。このセリフに心を揺さぶられ、彼の友人はアップル社の一員となった。

4-5: 不特定多数の人々へのスピーチ・講義等で用いられた直喩・隠喩表現例

(Open Communication)

① 理解困難な語彙の具体化

・ If I were walking home with Aso, a friend of mine, I would protect him if three or so bad guys were to punch him. That's what I will be able to do under the latest legislation. This is the limited exercise of the right of Collective Self-Defense.

(Shinzo Abe, Liberal Democratic Party Internet Program 2013)

(集団的自衛権とは、私が麻生氏と歩いていて彼が数人の暴漢に襲われたとき、彼と一緒にになって相手を撃退する権利そのものだ。)

The Japan News は、当時 PM uses folksy metaphor という小見出しをつけ、集団的自衛権を表す安倍内閣総理大臣の隠喩表現(Metaphor)として紹介した。

② 凄惨な場面の抽象化

・ Seventy-one years ago, on a bright, cloudless morning, death fell from the sky and the world was changed. A flash of light and a wall of fire possessed the means to destroy itself.

(Barack Obama, Speech in Hiroshima 2016)

(71年前、明るく雲ひとつない晴れわたった朝、死が空から舞い降り、世界が変わってしまいました。閃光と火柱が都市を破壊し、人類が自らを破壊する手段を手にしました。)

2016年5月28日、アメリカ合衆国オバマ前大統領が初めて被爆地広島を訪問し、世界平和を願う演説をした。原子爆弾投下によって行われた大量殺戮と焼け野原と化した世界(広島・長崎)を独特の隠喩(Metaphor)で表現した。

4-6: 文学や偉人の名言等で用いられた直喩・隠喩表現の抜粋 (Historical Examples)

<抽象的概念の具現化>

・ The greatest happiness of the greatest number is the foundation of morals and legislation.

(最大多数の最大幸福こそ道徳と法律の基礎である。)

(Jeremy Bentham, 1748-1832)

- Truth is stranger than fiction.

(真実は小説より奇なり。)

(George Gordon Byron, 1788-1824)

- Meditation and water are wedded forever.

(瞑想と水は永遠の絆で結ばれている。)

(Herman Melville, 1819-1891)

- Genius is one percent inspiration and ninety-nine percent perspiration.

(天才とは1%のひらめきと99%の努力である。)

(Thomas Alva Edison, 1847-1931)

- Humanity is like an ocean. It is not a bucket of water.

(人間性とは大海のようなものだ。一杯のバケツの水ではない。)

(Mohandas Karamchand Gandhi, 1869-1948)

これら上記の英文は、偉人の名言や格言、文学の中から直喩 (Simile)・隠喩 (Metaphor) 表現を用いて表したものを抜粋したものである。古くは 18 世紀中頃の表現もあり、歴史的にも長い時間をかけて伝わり、そして現在も光を放つ修辞表現である。抽象的概念を具現化させ定義づける表現として多く存在している。現代の英語コミュニケーションの中でも広く引用され、親しまれている。

5. 直喩 (Simile)・隠喩 (Metaphor) 表現における類似性の相違と多様性

直喩 (Simile)・隠喩 (Metaphor) 表現は、その解釈において、話し手 (書き手) と聞き手 (読み手) がおおむね一致する場合もあるが、その一方で、類似性に相違や多様性が見られることもある。それは、お互いの生活、経験、学習、信条などが異なり、表現の中で浮かび上がる類似性にズレを生じるからである。次に示す<図1>及び<図2>は、英

<図1>

Question Sheet

- | | |
|-------------------------------------|------|
| ① My friend is as () as Cinderella | (生活) |
| 私の友人は、シンデレラと同じくらい () だ。 | |
| ② You are as reliable as (). | (経験) |
| あなたは () と同じくらい頼りになる。 | |
| ③ University degrees is the (). | (学習) |
| 大学卒業資格は () だ。 | |
| ④ () is the symbol of justice. | (信条) |
| () は正義の象徴だ。 | |

< 図 2 >

The Result of the Answer Rate

Age: 19-21 Sex: Female Occupation: Student The numbers: 100 Date:11/5/2017

| ① | ② | ③ | ④ |
|---------------------|-------------------------------|--|---------------------------------|
| Beautiful (0.59) | Ultraman (0.02) | ticket to the heaven (0) | The police (0.23) |
| poor (0.08) | Spiderman (0.11) | ticket to the society (0.32) | The Olympic (0.07) |
| strong (0.07) | Superman (0.15) | license of workers (0.18) | The statue of liberty (0.09) |
| obedient (0) | Doraemon (0.24) | loss of freedom (0.05) | Sun flower (0.12) |
| happy (0.04) | Father (0.13) | light of life (0.03) | Law (0.08) |
| lucky (0.12) | Mother (0.20) | starting point of life (0.27) | Jesus Christ (0) |
| pure (0.03) | Teacher (0.10) | evidence of adult (0.02) | Black (0.01) |
| kind (0.05) | Smartphone (0.03) | junk in the toy box (0.01) | Buddha (0) |
| patient (0.02) | Encyclopedia (0) | accessory of intelligence (0.12) | Love (0.37) |
| faithful (0) | Dictionary (0.02) | <Other> (0) | Pen (0.02) |
| <Other> (0) | <Other> Grandmother (0.01) | <Other> (0) | <Other> Winner (0.01) |
| Total (1.00) | Total (1.00) | Total (1.00) | Total (1.00) |

語コミュニケーションを履修する学生の中から無作為に選んだ 100 人の学生に、直喩 (Simile)・隠喩 (Metaphor) 表現の英文を読んでもらい、それぞれの空欄に当てはまる類似性を自身の生活、経験、学習、信条に照らし合わせて無記名で選択回答した調査結果である。

英文①は、友人をシンデレラに喩える直喩表現であるが、結果を見ると圧倒的に beautiful を選択した者が多い。人間の評価については、外面的なものと内面的なもの、そして過程 (プロセス) と結果に対して着目することが多いが、「シンデレラ」という言葉とその物語を踏まえての直喩表現は、女子学生の場合、外面的な評価で用いるということが多数派であることがわかる。しかし、その他に内面的なものや、過程や結果に着目して言葉を選んでいる学生もおり、回答者の年齢、性別、職業などの制限をなくせば、回答の幅はさらに広がったであろう。

英文②は、「頼りになる (人) 物」としての直喩表現であるが、幅広い選択回答が見られ、その数も拮抗している。悪や災難から守ってくれる「ヒーロー (英雄)」から、「身近な家族」、「知的情報や便利性の追求として頼りがいがあるもの」という観点まで様々であった。

英文③は、大学卒業資格を隠喩表現で表すものであるが、その位置づけを「社会人としての基盤」「社会貢献の第1歩」とするものが多く見られ、類似性における相違と多様性はある程度見られるものの、3つの選択回答にやや集中していた。これは学生特有の傾向であり、調査対象を学生以外の職業とすれば、別の選択肢を優先させる傾向もありうる。

英文④は、「正義」を喩える隠喩表現であるが、「警察」のような国民の安全を守る組織を選択する学生が多数いる一方で、抽象的な概念である「愛」を選択する学生も多数おり、回答は大きく2つに分かれた。ここでも女子学生の特徴が表れている。性別を問わない条件とすれば、上記2つの選択比率は逆転する可能性もありうる。宗教的観点から「正義」を定義することが見られなかったことも興味深い。また、少数派ではあるが、その他の選択肢を選ぶ学生も数名おり、回答は多岐にわたった。これらの結果から、直喩・隠喩表現における類似性の相違と多様性が、①～④すべての英文表現において確認することができる。

6. 考察

直喩 (Simile)・隠喩 (Metaphor) 表現は、レトリック (修辞法) の1つであり、言語における表現技法である。それらは2. で述べた通り、2つの異なる物事に共通する概念に焦点をあてた比喩表現である。しかし、この研究では、使われている語彙をカテゴリカルに分類し表現技法を研究する (Lattey, E. 1986) 側面は持たない。英語の直喩や隠喩表現は、人間を動物や物体の性質に喩え、イディオム化したものや、物理的領域と抽象的領域を結びつける働きをするものなどがあり、選択制限上の衝突を乗り越えた表現とも言えるが (小崎充 1992、今仲昌宏 2007)、ここでは使用する語彙や表現技法で分類した先行研究とは一線を画し、コミュニケーション英語の立場から、直喩・隠喩表現がそれぞれどのような場面で使われ、どのような影響と効果を及ぼしているかを、具体例をできるだけ多数示しながら明らかにすることを試みた。

直喩・隠喩表現には、喩えるものと喩えられるものの間に類似性があることが前提になる。3. で述べた聖書の直喩・隠喩表現のように、一千年を超える長い年月をかけて人々の傍らに携えられ、宗教上の教示や教訓を人々に伝えてきたものを除き、人々の思考や生活信条、文化を背景とした価値観などは、時間の経過に伴い変化があり、その変遷によって直喩・隠喩表現の類似性が認められなくなったものはかなりあるだろう。それらは、もはや直喩や隠喩とは呼べない。(伊藤薫 2014) また、異なる言語や文化の壁によって類似性が認められなくなったものも同様である。いわゆる死喩となり、その表現は受け入れられなくなり、人々の理解を得られにくい。例えば、*This kimono is as valuable as a television.* と表現しても、テレビは、昔は三種の神器の1つと言われ大変高価であったが、現代では生活の一部となるぐらい安価なものであり、*valuable* の喩えとしては機能しがたい。

その意味では、4-6. で示した歴史上の偉人たちが残した直喩・隠喩表現なども、現代英語表現の中で引用され親しまれてはいるが、その類似性における「人々の共感」は、時代の流れや世界観の移り変わりによって鮮明さを失い、徐々に死喩化する可能性も含んでい

る。中世以降にさかのぼり、人々の記憶に残る直喩や喩喩表現が少なくなっていくのもそれが一因であろう。一方、類似性が当然視され、誰もがそう思える喩えは、修辞法上の直喩 (Simile) や喩喩 (Metaphor) としての表現効果は薄く、普遍性のあるものにはそれらの表現法は適さない。(佐藤信夫 1992) 例えば、**Human is a monkey.** のように喩喩表現をしても、人間とサルとの類似性は万民が認知しており、さらに知能は人間が優れていることも周知の事実であるので、現存する類似性以外に「伝えたい内容が何であるのか」がわかりにくい。「人間は猿だ」と言い放ち、人間を侮辱しているようにも聞こえる。そのように、直喩・喩喩表現の効果は、時間の経過とともに「物の見方や考え方の変遷」という影響を受け、その表現が示す本質的な意味を永く保つことができないとも言える。それにもかかわらず、なぜ人々は直喩・喩喩表現を用いるのだろうか。

直喩や喩喩表現は、その類似性に光や色や輪郭を与え、性質を具現化することで、聞き手 (読み手) のイマジネーションを呼び起こし、その重要性や結束性を表現することができる。そして同時に、聞き手 (読み手) が自らの生活、学習、経験、そして信条と照らし合わせ、「なるほど、その類似性は的を射ている」と思える時、その表現効果は絶大になる。直喩 (Simile) や喩喩 (Metaphor) 表現が示す類似性の真意を理解し受け入れるものと、そうでないものがあるが、理解できる人々がその類似性に共感し、親近感を抱くとき、それらは「受け入れやすく、わかりやすい表現」へと姿を変え、相手の心に届く。また、理解できない人も **What do you mean by that?** (それはどういう意味ですか。) と真意を確かめることによって思っても見ない類似性に出会うこともある。また、コミュニケーションの場面と人間関係において、直喩・喩喩表現において使う言葉や言い回しには決まったルールがなく、話し手 (書き手) は、語彙や表現方法において工夫を凝らしながら創造的 (creative) に取り組むことができるゆえ、その類似性の表現は、一層聞き手 (読み手) にとって理解しやすいものとなる。

5. で示したように、直喩・喩喩表現において人々が思い描く類似性には、相違や多様性があり、人によっては腑に落ちない可能性も出てくるが、それでもなお、自分が思いもしなかった意外な類似性に出会い、それを再確認して共感できる時、話し手 (書き手) のアイデンティティ (Identity) とヒューマニティ (Humanity) に親近感と興味を持つことができよう。なぜならば、Identity と Humanity を構成する要素こそが生活、学習、経験、そして信条と言えらるからである。そのような意味で、異なる言語を持つ者同士が繰り広げる英語コミュニケーションにおいて、直喩 (Simile) ・喩喩 (Metaphor) 表現が良好な人間関係を構築する一助となることは明らかである。英語コミュニケーションにおける直喩 (Simile)、喩喩 (Metaphor) 表現は、「伝えにくいを受け入れてもらいたいこと、心に届けたいこと」を言語や文化の壁を越えて、自分自身の Identity と Humanity をさらけ出し、その類似性を聞き手 (読み手) が共感し、「わかりやすく、受け入れやすい表現」となって相手の心へ伝わる効果を持ち合わせている。直喩 (Simile)、喩喩 (Metaphor) 表現を伴うメッセージは、肯定的、否定的いずれであっても、4-2 から 4-5 で示したような様々なコミュニケーション場面と人間関係において、少なからず聞き手の受容的姿勢 (Preferable Response) を引き出し、人間関係を深める効果があると考えられる。英語コミュニケーション

の中に類似性を包み込んだこのような表現効果を直喩 (Simile)、隠喩 (Metaphor) 表現のプレゼントラッピング効果 (Present Wrapping Effect) と呼ぶことにしたい。

<参考文献>

- ・ Johnson, M. (1980). *Metaphors We Live By*. The University of Chicago Press.
- ・ Lattey, E. (1986). *Pragmatic Classification of Idioms as an Aid for the Language Learner*
- ・ Lakoff, G. (1987). *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal About the Mind*. : The University of Chicago Press.
- ・ Lakoff, G. and Turner, M. (1989). *More Than Cool Reason: A Field Guide to Poetic Metaphor*. Chicago: The University of Chicago Press.
- ・ Gibb, H. & Wales, R. (1990). *Metaphor or Simile: psychological determinants of the differential use of each sentence form: Metaphor and Symbolic Activity*
- ・ Gibbs, R. (1994). *The Poetics of Mind: Figurative Thought, Language and Understanding*. Cambridge: Cambridge University Press.
- ・ Aiseman, R. (1999). *Structure-mapping and the simile-metaphor preference*.
- ・ Shinzo Abe (2013). *Liberal Democratic Party Internet Program 2013*
- ・ Barack Obama (2016). *Speech in Hiroshima 2016*
- ・ 小崎充 (1992) 「英語における直喩についての一考案」
- ・ 今中昌宏 (2007) 「概念メタファーによる英語イディオムの学習」
- ・ 伊藤薫 (2014) 「比喩表現コーパスの構築と問題点ー言語学の立場からー」
- ・ 佐藤信夫 (1992) 「レトリック感覚」(講談社)
- ・ 日本聖書協会 (2001) *Executive Committee of the Common Bible Translation*
- ・ 石黒マリーローズ (2012) 「英語で読む罪と悪の聖書」(コスモピア株式会社)
- ・ 寺澤 盾 (2015) 「英単語の世界」(中公新書)
- ・ ジーニアス英和辞典第5版 (2014)
- ・ Longman Dictionary of Contemporary English. Edinburgh: Pearson Education Limited (2014)